

第 30 回通常総会

2024 年 3 月 13 日 (水)

一般社団法人 言語処理学会

The Association for Natural Language Processing

第 30 回通常総会次第

日時 2024 年 3 月 13 日 (水) 13 時 10 分～13 時 45 分

会場 神戸国際会議場 4F, SC 会場 (404)

総会次第

第 1 号報告 2023 年度事業報告

第 1 号議案 2023 年度決算報告

第 2 号報告 2023 年度監査報告

第 3 号報告 2024 年度事業計画

第 4 号報告 2024 年度予算案

第 2 号議案 理事の選任

第 3 号議案 監事の選任

第 5 号報告 2024 年度代議員構成

以上

2023 年度事業報告

1. 概要

言語処理学会の主要な活動として、論文誌「自然言語処理」の発行および年次大会の開催を計画通りに進めました。「自然言語処理」に関しては、第 30 巻の 1 号から 4 号を発行しました。第 29 回年次大会は、2023 年 3 月 13 日（月）から 17 日（金）までハイブリッドで開催しました。また、学会 30 周年の記念事業についても準備を進めました。

2. 会員現況

正会員 1210 名 (+120) [うちシニア会員 17 名 (-1)]
学生会員 635 名 (+124)
賛助会員 31 組織 (+4), 32 口 (+4)
(2023 年 12 月 31 日現在, 増減は 2022 年 12 月 31 日との比較)

なお、定款第 11 条 1 項 2 号にもとづき、会費を 1 年以上滞納した会員 179 名（正会員 56 名（うちシニア会員 1 名）、学生会員 123 名）については、その会員資格を喪失したものと扱います。

3. 会誌の発行

第 30 巻第 1 号 (2023 年 3 月 15 日発行, 通巻 135 号)
巻頭言, 一般論文 7 編, 学会記事 6 編, 編集後記, 会告
第 30 巻第 2 号 (2023 年 6 月 15 日発行, 通巻 136 号)
巻頭言, 一般論文 16 編, 応用システム論文 1 編, 技術資料 1 編, 解説論文 1 編, 学会記事 10 編, 編集後記, 会告
第 30 巻第 3 号 (2023 年 9 月 15 日発行, 通巻 137 号)
巻頭言, 一般論文 8 編, 学会記事 6 編, 編集後記, 会告
第 30 巻第 4 号 (2023 年 12 月 15 日発行, 通巻 138 号)
巻頭言, 一般論文 4 編, 学会記事 10 編, 編集後記, 会告

4. 第 29 回年次大会の開催

◇開催内容

■会場と開催形式

- 現地会場を中心とするハイブリッド形式での開催
 - 会場：沖縄コンベンションセンター
 - 現地ポスター発表を除く全ての大会プログラムにオンラインで参加が可能
 - Zoom による参加者向けオンライン配信
 - 招待講演のみ一般向けに YouTube Live でリアルタイム配信
 - 内閣府通達にもとづく参加者への感染防止対策の要請
 - アルコール消毒液の設置・マスク着用は自主判断（大半が着用）

- 開催期間

- 2023年3月13日（月）～17日（金）
- 3月13日（月）13:00-チュートリアル，本会議第1日，スポンサーイブニング
- 3月14日（火）09:40-本会議第2日，緊急パネル，参加者交流イベント
- 3月15日（水）09:40-本会議第3日
- 3月16日（木）09:40-本会議第4日
- 3月17日（金） ワークショップ

■参加費用

ハイブリッド開催に伴う経費支出の増加に伴い、一般向けの参加費用を NLP2022 の 5 割増程度に値上げしました。他方、学生分の値上げは最低限に留めました。

	事前登録	直前登録	当日登録
一般会員	12,000 円 ※1	18,000 円 ※1	—
学生会員	3,500 円 ※1	7,000 円 ※1	—
非会員（一般）	24,000 円 ※2	30,000 円 ※2	33,000 円 ※2
非会員（学生）	8,000 円 ※2	12,000 円 ※2	14,000 円 ※2

※1 ... 不課税, ※2 ... 税込

■参加登録数と発表件数

以下に 2018 年以降の発表件数・参加登録数の推移を示します。発表件数は前回大会から 5 割の大幅増加となりました。発表件数の増加率は学生と一般でほぼ同じでした。

			発表件数				参加者数		
			Total	O	Th	P	M	Tu	W
第29回	2023	沖縄コンベンションセンター	579	260	37	282	1828	1151	989
第28回	2022	アクトシティ浜松	386	221	33	132	1718 ^{*3}	-	-
第27回	2021	北九州国際会議場	361	172	12	185	1508 ^{*3}	-	-
第26回	2020	茨城大学	396	130	50	216	1052 ^{*2}	-	-
第25回	2019	名古屋大学	398	132	56	210	1275	469	-

次に参加登録数の内訳を示します。()内は NLP2022 の数値です。参加登録数のうち参加費の支払いを伴う登録数は、NLP2022 の 1150 人に対して NLP2023 は 1602 人と大幅な増加となりました。増加要因としては、4 年ぶりの現地開催となったこと、沖縄での現地参加希望者が多かったことの相乗効果が考えられます。さらに緊急パネルの開催により直前登録・当日登録で数十人規模の追加の集客が得られたと考えています。学生参加者では会員が占める割合が増加しており、沖縄開催により学生の発表数が増加した結果と考えています。なお、スポンサーの大会参加特典はオンライン開催では枠数を増やしていましたが、今大会からは NLP2019 以前の水準に戻しています。

- 一般
 - 会員 事前: 495 (366) 直前: 55 (60)

- 非会員 事前: 267 (125) 直前: 119 (61) 当日: 40
- 学生
 - 会員 事前: 450 (335) 直前: 23 (25)
 - 非会員 事前: 122 (151) 直前: 20 (27) 当日: 11
- 招待コード
 - スポンサー 211
 - 賛助会員 29
 - 講師 12
 - マスメディア 5

■スポンサー団体数

スポンサー申込数はNLP2022の66団体からNLP2023では80団体に、スポンサーブース申込数は29枠から44枠（ダイヤモンドブースを除く）へと大幅に増加しました。新設したダイヤモンドランクは110万円の高額にも関わらず、設定した枠数を上回る申し込みがありました。スポンサー賞については枠数を従来の5件から10件まで増やした結果、申し込みは9件まで増えました。

- ダイヤモンド2・プラチナ29・ゴールド26・シルバー23
- 展示ブース 通常:38・大型:3
- スポンサー賞 9

◇ 新規施策

- 日程関連
 - 初日月曜の夕方から本会議を開始し招待論文とオープニングを実施
 - 参加者限定サイトを廃止し会期一週間前から予稿集を一般公開
- 発表関連
 - 予稿集は会期一週間前に一般向けに公開
 - ポスターに加えて口頭発表資料も事前に収集して参加者限定 Slack で共有
 - 発表者マニュアル・座長マニュアルの拡充（実行委員会の貢献大）
 - 発表者専用ネットワークによる現地・オンラインを問わないシームレスな発表の配信
 - 口頭発表時間を18分に短縮
 - 招待講演の一般向け配信（YouTube Live）
 - 緊急パネル・一部の招待講演の動画を無期限で一般公開
 - オンラインポスター発表で中継用 PC を現地ポスター会場付近に設置
- 表彰関連
 - 論文投稿件数の増加に伴う表彰枠の増大
 - 若手奨励賞・委員特別賞の基準の変更
 - 委員特別賞の表彰式での授賞者をプログラム委員長に変更
- 参加登録関連
 - オンラインでの当日参加登録受付
 - 参加証を持っていない参加者の現地受付にスマートフォンを活用

- 大会参加マニュアルの事前配布
- 参加者限定 **Slack** ワークスペースの充実
 - 発表者と聴講者の間の議論のさらなる活性化のための各種施策を実施
- 現地参加者向け施策
 - 事前参加登録者の受付手続きの廃止
 - 参加者向け **Wi-Fi・AC** 電源の提供
 - シャトルバスの運行・路線バス増便とプリペイド **IC** カード事前購入
 - 託児室利用料の部分補助
 - キッチンカーの出店
 - 懇親会代替の参加者交流イベントの開催（無料＋ノンアルコールで実施）
 - 展示場へのフリースペース・フォトスポットの設置
 - 大会期間中の自発的交流企画の **Slack** での共有
- オンライン参加者向け施策
 - 実行委員会による現地会場中継
 - 座長による **Slack** での質疑の活性化
- スポンサー施策
 - ダイヤモンド枠の新設
 - 現地会場の看板類でのロゴ露出＋通常の **4** 倍の特別ブースを割当
 - あわせて出版社枠を廃止
 - スポンサー賞の枠数を **10** 件まで緩和
 - スポンサーイブニング参加率向上企画の実施
 - 沖縄らしいステージ演出
 - エイサー演舞によるスポンサー交流会会場への参加者の誘導
 - スポンサーブースへの人流確保
 - スポンサーブース奥手にポスター会場・ドリンクコーナーを配置
 - クレジットカード決済の提供
 - サプライチェーンシステム登録についてのポリシー策定
 - プログラム冊子の廃止
 - 渉外担当理事を中心とするスポンサー関連の意思決定
- ハイブリッド開催施策
 - **JSAI2022** の視察
 - 劇場ホールの円滑なステージ進行のためのステージマネージャ担当の追加
 - スポンサーイブニング・クロージングでの **BGM** の使用
- 参加者限定 **Slack** ワークスペース
 - 見通しの良いチャンネルネーミング＋全体構成
 - スポンサー **pr** チャンネル
 - 委員・座長向けチャンネル
 - 現地情報・交流会チャンネル＋オンライン交流会チャンネル
 - 盛り上がり通知 **bot**
 - 公開期間を **5** 月末まで延長
- 委員負担軽減・モチベーション向上

- 運営業務のアウトソーシング
 - Zoom 配信・舞台進行・受付全般・ブース設営・看板製作設置・会場管理等
 - 大会サイトソースコードの Markdown 化
 - Slack 投稿を自動化するツールの構築
 - 現地掲示物作成・Slack 運営のためにアルバイトを投入
- Backlog 等のプロジェクト管理ツールの導入
- GitHub 活用
 - Issue ベースでの CFP リリース
 - 連携 CI による大会 Web サイトの自動デプロイ
- 実行委員会主要メンバーで定期的にもくもく会を開催
- オープニング・クロージングでの委員紹介
- 参加登録完了メール・実行委員会ページでの担当紹介
- 大会秘書の業務効率向上
 - Google Groups を送信者とするメール配信
 - スポンサー等の招待枠管理に ORSAM の招待コード登録機能を活用
 - 委員用 Slack で CFP 毎にチャンネルを作成して公開作業を管理
 - スポンサー賞確定プロセスの見直し・会場で手渡しする表彰状からスポンサー賞を除外
 - 大会秘書自身による大会 Web サイトの更新
- 緊急パネルの開催
 - ChatGP への注目の高まりを受け 2 月末に企画開始・正副大会委員長で準備
- メディア露出
 - オウンドメディアの活用
 - 開催直前までの実行委員会による Twitter での継続的な露出
 - 参加者限定 Slack ワークスペースでの盛り上がり感の醸成
 - マスメディア露出
 - 渉外担当理事を中心とするメディア対応フローの導入
 - 撮影・インタビューは会場と時間帯を制限し事前許可制とした
 - 新聞社による取材を複数受け入れた
 - TV メディアからも取材要請があった（実現には至らず）

◇プログラム

■本会議 (3 月 13 日～16 日)

一般セッション（口頭発表，ポスター），テーマセッション合わせて 579 件の投稿があり，そのすべてがオンラインで発表されました．発表数の内訳は次の通りです．

- ・口頭発表(一般) 260 件
- ・口頭発表(テーマセッション) 37 件
- ・ポスター発表 282 件

発表件数は過去最多の NLP2019 の 398 件を大きく超えるものとなりました．今大会では発表件数の増加に伴い本会議を月曜夕方から木曜までの 4 日間に拡大し、また口頭発表とポスター発表を並列に実施する形に変更しました．その結果、口頭発表は 5 並列に抑え

ることができました。,

■テーマセッション (3月15日・16日)

公募により設定された以下の3件のテーマセッションを開催しました。

- ・金融・経済ドメインのための言語処理
- ・ことばの評価と品質推定
- ・地理空間情報と自然言語処理

■招待講演 (3月15日・16日)

下記の2名の先生をお招きし、招待講演を実施しました。また今回から、招待講演については一般向けにYouTube Liveでリアルタイム配信も行いました。

- ・谷口 忠大 先生 (立命館大学)
社会における分散的ベイズ推論としての記号創発 ～集合的予測符号化としての言語観～
- ・田窪 行則 先生 (国立国語研究所)
危機言語の記録・維持・再生の諸問題：琉球諸語を中心に

■招待論文講演 (3月13日)

会誌「自然言語処理」に発表された論文の中から選出された以下の4件の論文についての発表が行われました。

- ・負例を厳選した対話応答選択による対話応答生成システムの評価
佐藤 志貴, 赤間 怜奈, 大内 啓樹, 鈴木 潤, 乾 健太郎
Vol.29, No.1, pp. 53-83
- ・対話における間接的応答と直接的応答からなる言い換えコーパスの構築と分析
高山 隼矢, 梶原 智之, 荒瀬 由紀
Vol.29, No.1, pp. 84-111
- ・マスクされた単語埋め込みと2段階クラスタリングを用いた動詞の意味フレーム推定
山田 康輔, 笹野 遼平, 武田 浩一
Vol.29, No.2, pp. 395-415
- ・BioVL2 データセット: 生化学分野における一人称視点の実験映像への言語アノテーション
西村 太一, 迫田 航次郎, 牛久 敦, 橋本 敦史, 奥田 奈津子, 小野 富三人, 亀 甲 博貴, 森 信介
Vol.29, No.4, pp. 1106-1137

■チュートリアル (3月13日)

以下の4つのテーマについてチュートリアルを実施しました。

- ・音声合成は次にどこに向かうのか
高道 慎之介 先生 (東京大学)
- ・自然言語処理から見た古典語と現代語
近藤 泰弘 先生 (青山学院大学)
- ・医療言語処理とはじめ
荒牧 英治 先生 (奈良先端科学技術大学院大学) ・中村 優太 先生 (東京大学)

- ・ 構文文法の基本的な考え方：言語使用から創発する言語知識のありようを探る
大谷 直輝 先生（東京外国語大学）

■スポンサーイブニング (3 月 13 日)

スポンサーと参加者との交流を目的として、スポンサーイブニングを開催しました。
600 名を超える参加があり、スポンサーブースでの交流が活性化されました。

■参加者交流イベント (3 月 14 日)

新型コロナ感染防止の観点から、従来の懇親会に代えてノンアルコールの参加者交流イベントを沖縄コンベンションセンター展示場で開催し、800 人を超える多くの参加者が交流しました。

■ワークショップ (3 月 17 日)

前大会に引き続きワークショップの募集を行いました。以下の 2 件の応募があり、いずれも多く参加者を集めて開催されました。

- ・ 日本語言語資源の構築と利用性の向上
- ・ 深層学習時代の計算言語学

■緊急パネル：ChatGPT で自然言語処理は終わるのか？(3 月 13 日)

ChatGPT が言語モデルの利用方法を飛躍的に広げ、世間からも大きな関心を集める中で、巨大言語モデルの出現で NLP はどう変わるかについて、5 名のパネリストを迎えて議論を行いました。緊急パネルの反響は大きく、大手メディアから複数の問い合わせがありました。

◇各種表彰

年次大会優秀賞・若手奨励賞の選考にあたり、選考委員会を組織し、慎重な議論を重ねた上で選定を行いました。その結果、以下に示す最優秀賞 2 件、優秀賞 11 件、若手奨励賞 18 件の論文・著者を選定しました。大会賞の選考のための内規では、

優秀賞は全発表件数の約 2%を目安とする

優秀賞の中で特に評価の高いものを 0 件から 2 件の範囲で最優秀賞とする

若手奨励賞は対象論文の 4%件程度を目安に選出する

注：前回大会は 10 件が目安となっていたが、発表件数の増加を受けて、前回大会の割合（約 4%）に準じることとした。

となっています。最優秀賞、優秀賞、若手奨励賞ともに内規通りです。

優秀賞：対象論文は 579 件。2%程度（2.0%～2.4%とした時）は 12 件～14 件

13 位と 14 位に点数の開きが見られたため 13 位までを優秀賞とした。

内、2 件の点数が際立って高かったため最優秀賞とした。

若手奨励賞：対象論文は 406 件。4%程度（4.0%～4.4%とした時）は 16 件～18 件。

16 位～18 位の間の差は僅少で、18 位と 19 位の間には開きが見られたため、18 位までを若手奨励賞とした。

■最優秀賞（2件：発表番号順）

B3-3 文書レベル関係抽出における根拠認識の統合
Youmi Ma, An Wang, 岡崎直観 (東工大)

Q3-10 対訳データを使わないマルチリンガル表現学習に必要な分布構造とは何か
李凌寒, 鶴岡慶雅 (東大)

■優秀賞（11件：発表番号順）

C3-1 埋め込み表現の意味適応による知識ベース語義曖昧性解消
水木栄, 岡崎直観 (東工大)

B3-2 Cross-stitching Text and Knowledge Graph Encoders for Distantly Supervised Relation Extraction
代勤 (東北大), Benjamin Heinzerling (理研/東北大), 乾健太郎 (東北大/理研)

C3-3 自己注意機構における注意の集中が相対位置に依存する仕組み
山本悠士, 松崎拓也 (東京理科大)

Q3-12 スケール不変な木構造棒折り過程に基づく無限階層トピックモデル
江島舟星 (Harvard), 持橋大地 (統数研)

A5-3 ReazonSpeech: A Free and Massive Corpus for Japanese ASR
Yue Yin, Daijiro Mori (Reazon), Seiji Fujimoto (Clear Code)

D7-4 日本語 WiC データセットの構築と読みづらさ検出への応用
吉田あいり, 河原大輔 (早大)

Q8-10 大規模言語モデルに基づく複数の外部ツールを利用した推論フレームワーク
稲葉達郎, 清丸寛一, Fei Cheng, 黒橋禎夫 (京大)

B9-5 時系列構造化ニューラルトピックモデル
宮本望, 磯沼大 (東大), 高瀬翔 (東工大), 森純一郎, 坂田一郎 (東大)

Q10-9 人間の多次元的な心的表象に基づく幼児語彙獲得モデルの構築
藤田守太, 南泰浩 (電通大)

A11-4 SlideVQA: 複数の文書画像に対する質問応答
田中涼太, 西田京介, 西田光甫, 長谷川拓, 斉藤いつみ, 齋藤邦子 (NTT)

H12-4 構文解析と画像生成の統合による機能語の言語理解
山木良輔, 谷口忠大 (立命館大), 持橋大地 (統数研)

■若手奨励賞（18件：発表番号順）

発表件数の増大に伴い、昨年度と同様の割合とするため対象論文数の4%程度としました。

B2-4 トピックエントロピーに基づく学習データ選択による事前学習言語モデルの訓練安定性向上

永塚光一 (創価大)

D3-1 言語モデルの第二言語獲得

大羽未悠 (NAIST)

H3-4 Controlling Text Generation with Fiction-Writing Modes

Wenjie Zhong (東大/産総研)

D4-1 日本語有害表現スキーマの提案と評価

小林滉河 (LINE)

C4-4 ガウス埋め込みに基づく文表現生成

陽田祥平 (名大)

P6-2 Average Token Delay: 同時翻訳の遅延評価尺度

加納保昌 (NAIST)

Q6-4 転移学習における強化学習を用いた効率的なトークナイザとモデルの同時学習

平子潤 (名大)

D6-5 ニューラル分類器の予測の解釈に基づく集団に特徴的なテキスト表現の抽出:アメリカ人を例に

渡邊幸暉 (京大)

H7-5 ゼロ照応解析に基づく項省略補完を取り入れた対話応答生成

上山彩夏 (静大)

P7-11 Improving Peer-Review Score Prediction with Semi-Supervised Learning and Denoising Networks

Muangkammuen Panitan (山梨大)

H8-2 Utilizing Pseudo Dialogue in Conversational Semantic Frame Analysis

Shiho Matta (京大)

A9-3 自然言語生成タスクの自動評価指標のためのドメイン外検出

伊藤拓海 (東北大)

Q9-3 On the Bias of CLIP for Object-Attribute Recognition

Yutaro Yamada (イエール大)

H10-3 ARKitSceneRefer: 3D 屋内シーンでの参照表現による小物の位置特定

加藤駿弥 (京大)

Q12-1 JMultiWOZ: 日本語タスク指向型対話データセットの構築
大橋厚元 (名大)

H12-2 実世界のマルチモーダル情報に基づく指示語を含んだ言語指示の外部照応解析
大山瑛 (立命館大)

P12-4 球体表面を利用した位置符号化
岡佑依 (NTT)

A12-5 読解問題における論理推論の一貫性評価
川畑輝 (NAIST)

■言語資源賞 (対象 97 件中 2 件：発表番号順)

言語資源賞は、論文投稿時に審査希望とした 97 件より GSK の審査員が審査し、今大会では以下 2 件が選出されました。

H1-1 日本語日常対話コーパスの構築
赤間怜奈 (東北大/理研), 磯部順子 (理研), 鈴木潤, 乾健太郎 (東北大/理研)

A11-4 SlideVQA: 複数の文書画像に対する質問応答
田中涼太, 西田京介, 西田光甫, 長谷川拓, 斉藤いつみ, 齋藤邦子 (NTT)

■スポンサー賞 (9 件：スポンサー賞申込順)

スポンサー 9 団体から独自の視点でそれぞれ 1 件の論文を選出していただきました。

* 日本電気賞

B1-1 計算資源が限られた複数組織での出力選択による協働の検討
伊藤郁海 (東北大), 伊藤拓海 (東北大/Langsmith), 鈴木潤, 乾健太郎 (東北大/理研)

* サイバーエージェント賞

A7-2 参照例を使わないキャッチコピーの自動評価
新保彰人, 山田寛章, 徳永健伸 (東工大)

* 富士通賞

D2-2 権利侵害と不快さの間：日本語人権侵害表現データセット
久田祥平, 若宮翔子, 荒牧英治 (NAIST)

* Helpfeel 賞

A4-2 FAQ 検索における言い換え生成を利用したデータ拡張手法
曹羽隆, 小川泰弘, 外山勝彦 (名大)

* LINE 賞

C12-3 Wikipedia 協調フィルタリング法

竹内皓紀 (群大), 林克彦 (北大)

＊ 博報堂D Yホールディングス賞

H11-5 大規模言語モデルによる脚本データの解析: プロダクト・プレイスメント挿入箇所の探索と評価

山木良輔 (立命館大), 檜木悠士 (早大), 長沼大樹 (UdeM/Mila)

＊ 日立製作所賞

H5-2 クエリ指向要約におけるクエリと要約の統合的な生成

服部翔, Youmi Ma, 岡崎直観 (東工大)

＊ 高電社賞

A2-2 文単位の Nbest 候補制約に基づく文書翻訳

駒田啓伍 (東北大), 森下睦 (NTT), 鈴木潤 (東北大)

＊ coly 賞

H3-4 Controlling Text Generation with Fiction-Writing Modes

Wenjie Zhong (東大/産総研), Jason Naradowsky (東大), 高村大也 (産総研), 小林一郎 (お茶大/産総研), 宮尾祐介 (東大/産総研)

■委員特別賞 (26 件: 発表番号順)

選考基準は昨年度から微修正しました。具体的には、本賞は発表論文に対して授与すると明記されていることから、「過去の委員特別賞受賞者の筆頭論文は審査対象外」という規定を削除しました。

- 特定の観点において優れた発表論文を対象論文の 4%程度表彰
- 対象論文は 579 件。4%程度 (4.0%~4.4%とした時) は 24 件~26 件。
- 本賞は発表論文に対して授与
- 同一大会の優秀賞論文は審査対象外
- 同一大会の若手奨励賞受賞者の筆頭論文は審査対象外

B1-1 計算資源が限られた複数組織での出力選択による協働の検討

伊藤郁海 (東北大), 伊藤拓海 (東北大/Langsmith), 鈴木潤, 乾健太郎 (東北大/理研)

D1-3 日本語話者の項省略判断に関するアノテーションとモデリング

石月由紀子 (東北大/理研), 栗林樹生 (東北大/Langsmith), 松林優一郎 (東北大/理研), 笹野遼平 (名大/理研), 乾健太郎 (東北大/理研)

Q1-4 問題タイプを考慮した英単語穴埋め問題の不正解選択肢の自動生成

吉見菜那, 梶原智之 (愛媛大), 内田諭 (九大), 荒瀬由紀 (阪大), 二宮崇 (愛媛大)

D2-4 逆接の推論関係に着目した日本語談話関係アノテーション

窪田愛, 佐藤拓真, 天本貴之, 秋吉亮太, 峯島宏次 (慶應大)

C2-5 最長一致パターンに基づく高速・高精度な日本語形態素解析

吉永直樹 (東大)

P2-14 視覚と言語の融合モデルにおける知識の振る舞いを調査するための表と画像の生成タスクの提案及びその調査結果

上垣外英剛 (NAIST), 林克彦 (北大), 渡辺太郎 (NAIST)

Q3-1 事前学習済み Transformer モデルのための注意教師付き Few-shot データの蒸留

前川在, 小林尚輝, 船越孝太郎, 奥村学 (東工大)

P3-6 形態論情報付き日本語 Universal Dependencies

田口智大 (ノートルダム大), 宮川創 (国語研)

P3-13 要素の重複と不連続性を扱える抽出型の語構成要素解析: 並列分散型形態素解析の提案

黒田航 (杏林大), 相良かおる (西南女学院大), 東条佳奈 (阪大), 麻子軒 (関大), 西嶋佑太郎 (フリー), 山崎誠 (国語研)

H4-1 服飾の色情報に基づいたポエティックな商品名の作成支援システム

飯塚柚稀 (群大), 林克彦 (北大), 永野清仁 (群大), 宮尾祐介 (東大)

H4-2 入力文章の内容に沿った新たな歌詞を生成する作詞支援システムと剽窃リスクを下げる歌詞生成手法

渡邊研斗, 後藤真孝 (産総研)

C4-5 ニューラル数式ソルバーにおける途中結果の追跡と操作

松本悠太 (東北大), Benjamin Heinzerling (理研/東北大), 吉川将司 (東北大), 乾健太郎 (東北大/理研)

H4-5 人間とシステムの議論に基づく NLP タスクの問題に対する予測

金子正弘 (東工大), Graham Neubig (CMU), 岡崎直観 (東工大)

B5-4 言語モデルの学習における知識ニューロンの形成過程について

有山知希 (東北大), Benjamin Heinzerling (理研/東北大), 乾健太郎 (東北大/理研)

H5-4 InstructSum: 自然言語の指示による要約の生成制御

西田光甫, 西田京介, 斉藤いつみ, 齋藤邦子 (NTT)

A7-2 参照例を使わないキャッチコピーの自動評価

新保彰人, 山田寛章, 徳永健伸 (東工大)

B7-3 DueT: 視覚・言語の Dual-adapter Tuning による基盤モデル

西田京介, 長谷川拓 (NTT), 前田航希 (東工大), 齋藤邦子 (NTT)

D7-3 百聞は一見に如かず? 視覚情報は言語モデルに文の階層構造を教示するか

栗林樹生 (東北大/Langsmith)

P7-4 Subspace representation for text classification with limited training data

Erica Kido Shimomoto, Edison Marrese-Taylor, 高村大也 (産総研), 小林一郎 (お茶大), 宮尾祐介 (東大)

C8-2 What can Short Answer Scoring Models Learn from Cross-prompt Training Data?

Hiroaki Funayama, Yuya Asazuma, Yuichiroh Matsubayashi (東北大/理研), Tomoya Mizumoto (理研), Kentaro Inui (東北大/理研)

D9-2 連続時間フラクショナル・トピックモデル

中川慧 (野村アセット), 林晃平 (東大), 藤本悠吾 (野村アセット)

A11-3 専門性の高いオープンブック質疑応答システムの構築と専門家添削による誤答抑制
後藤成晶, 上山道明, 須藤栄一, 清水司, 木村英彦 (豊田中研)

H11-4 広告文生成タスクの規定とベンチマーク構築

三田雅人, 村上聡一朗, 張培楠 (サイバーエージェント)

Q11-6 単語ベクトルの平行四辺形を特徴づける図形距離

前田晃弘 (JAIST), 鳥居拓馬 (東京電機大), 日高昇平 (JAIST)

H12-1 実世界における総合的参照解析を目的としたマルチモーダル対話データセットの構築

植田暢大 (京大), 波部英子, 湯口彰重, 河野誠也, 川西康友, 黒橋禎夫, 吉野幸一郎 (理研)

A12-4 JCommonsenseQA 2.0: 計算機と人の協働による常識推論データセットの改良

栗原健太郎, 河原大輔 (早大), 柴田知秀 (ヤフー)

◇総括

初の本格的ハイブリッド開催となった今大会では、大会運営に要する人的コストおよび経費の大幅な増加が見込まれたため、業務のアウトソーシングと効率化のための創意工夫の発案を積極的に委員に促し、大会委員会はそれらの実現に注力しました。結果として、過去最多の発表件数・参加者数・スポンサー数を達成しつつも、トラブルなく円滑に大会を終えることができました。この背景には、委員全員の念入りの準備と大会終了に至るまでの献身的な努力がありました。改めまして、委員の皆様、ならびに、業務委託先の皆様に、心より感謝申し上げます。また、スポンサーの皆様、座長や大会賞審査にご協力いただいた皆様、発表者ならびに参加者の皆様には、ポストコロナに向けた飛躍の第一歩となる記念すべき第 29 回年次大会を成功に導いていただきましたこと、ここに御礼申し上げます。今後に向けた改善については次期大会委員長に引き継ぎを行っており、既に第 30 回年次大会に向けて数多くの新しい取り組みが行われております。次回大会も皆様の厚いご支持・ご支援を賜れますようお願い申し上げます。

5. ニュースレターの発行

2022 年にはニュースレター Vol.29 No.12 と No.3 を発行し、学会運営、大会案内、大会優秀賞、論

文賞，言語処理技術セミナー開催などについて会員の皆さまへの情報提供を行いました。

6. 理事会の開催

計 8 回の理事会を開催し，入退会会員の承認，事業計画，予算，論文賞選考，年次大会の方針，年次大会優秀賞，ニュースレター発行，関連学会等への協賛等について審議し決定しました。また，言語処理技術セミナーの開催や学会運営についても議論しました。

理事会開催:

第 155 回 (2023 年 1 月 19 日，オンライン)

第 156 回 (2023 年 3 月 10 日，オンライン)

第 157 回 (2023 年 5 月 26 日，オンライン)

第 158 回 (2023 年 6 月 23 日，書面決議)

第 159 回 (2023 年 7 月 26 日，国立情報学研究所およびオンライン)

第 160 回 (2023 年 9 月 22 日，オンライン)

第 161 回 (2023 年 11 月 1 日，書面決議)

第 162 回 (2023 年 11 月 13 日，AP 虎ノ門およびオンライン)

第 163 回 (2023 年 12 月 15 日，書面決議)

7. 編集委員会

◇編集委員会の会議

2023 年は，編集委員会を 2 回開催したほか，随時，メール審議の形式で編集委員会を開催し，採否決定の一層の迅速化に努めました。

編集委員会開催:

第 108 回 (2023 年 3 月 17 日，ハイブリッド会議)

第 109 回 (2023 年 9 月 20 日，遠隔会議 (Zoom))

◇英文校正サービス

2023 年掲載論文について，16 件の論文のタイトルと概要の英文校正ならびに 9 件の英文論文の本文の英文校正を実施しました。

◇2023 年度論文賞の選考

2023 年度論文賞は，2023 年に出版された自然言語処理 30 巻 1 号から 4 号に掲載された論文 38 編より，編集委員会が賞に相応しい論文 4 編程度を推薦することを目指して，実施しました。選考は以下の手続きで実施し，浅原正幸副編集長を選考委員長として，一次投票は編集委員 39 名が，二次投票は編集委員 21 名が，それぞれ選考委員会を編成して審査を行いました。

(最優秀論文賞)

最優秀論文賞 1 件につきましては年次大会の招待論文セッションで発表いたします。

(論文賞) ※掲載順

著者名：栗原 健太郎，河原 大輔，柴田 知秀

論文タイトル：JGLUE: 日本語言語理解ベンチマーク

発行巻号頁：Vol.30 No.1, pp.63-87

著者名：塚越 駿，笹野 遼平，武田 浩一

論文タイトル：定義文を用いた文埋め込み構成法

発行巻号頁：Vol.30 No.1, pp.125-155

著者名：李 凌寒，鶴岡 慶雅

論文タイトル：人工言語による事前学習を用いた言語間転移可能な知識の分析

発行巻号頁：Vol.30 No.2, pp.664-688

著者名：大村 和正，河原 大輔，黒橋 禎夫

論文タイトル：基本イベントに基づく常識推論データセットの構築と利用

発行巻号頁：Vol.30 No.4, pp.1206-1239

◇論文掲載数および投稿数

2023 年は、通常号 4 号を出版し、総計 38 編の論文を刊行しました。「自然言語処理」への 2023 年の通常論文投稿数は、昨年と同水準の 55 編でした。

8. 助成，協賛，後援

以下の会議への助成，協賛，後援を行いました。

(1) 第 14 回産業日本語研究会・シンポジウム (後援)

オンライン 2023 年 2 月 9 日

(2) KISTEC 教育講座「体系的に学ぶ人工知能」コース (後援)

オンライン 2023 年 7 月 28 日 31 日 8 月 2 日 8 日 10 日

(3) システム制御情報学会・計測自動制御学会チュートリアル 2023 (後援)

大阪公立大学 I-site なんば および オンライン 2023 年 8 月 2 日

(4) 第 32 回 JTF 翻訳祭 2023 (後援)

JP タワー ホール&カンファレンス 2023 年 10 月 27 日 11 月 8 日～15 日

(5) 人工知能学会 合同研究会 2023 (協賛)

慶應義塾大学矢上キャンパス 2023 年 11 月 24 日～25 日

(6) 第 22 回ロボット聴覚オープンソースソフトウェア HARK 講習会 (協賛)

慶應義塾大学矢上キャンパス 2023 年 11 月 25 日

(7) IDR ユーザフォーラム 2023 (後援)

一橋講堂中会議場 2023 年 12 月 11 日

9. 30 周年記念事業

次の 30 周年記念事業の実施を行いました。

(1) 記念シンポジウムの準備

(2) フェロー新設の準備

(3) 留学支援交流会の実施および経済支援の検討

(4) 分野交流ハッカソンの実施・教材キュレーションの準備

(5) 特別言語処理セミナーの検討と企画

10. その他

昨年に引き続き、言語処理技術セミナーを開催しました。2023年10月30日にオンラインにて開催し、石上 亮介 先生（株式会社サイバーエージェント）、坂口 慶祐 先生（東北大学）、押川 幹樹 先生（株式会社ブレインパッド）にご講演いただきました。言語処理学会会員および学生（非会員含む）は無料として開催し、492 名の方々にご参加いただきました。

一般社団法人言語処理学会 正味財産増減計算書

2023年 1月 1日から2023年12月31日まで

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差異	備考
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
受取会費	[11,538,000]	[13,128,000]	[-1,590,000]	
正会員受取会費	(8,316,000)	(9,084,000)	(-768,000)	
正会員当年度	8,140,000	8,952,000	-812,000	@8,000円×1119名
正会員過年度	112,000	64,000	48,000	@8,000円×8名
正会員(シニア)当年度	64,000	68,000	-4,000	@4,000円×17名
正会員(シニア)過年度	0	0	0	@4,000円×0名
学生会員受取会費	(1,872,000)	(2,344,000)	(-472,000)	
学生会員当年度	1,852,000	2,324,000	-472,000	@4,000円×581名
学生会員過年度	20,000	20,000	0	@4,000円×5名
賛助会員受取会費	(1,350,000)	(1,700,000)	(-350,000)	
賛助会員当年度	1,350,000	1,600,000	-250,000	1口50,000円×32口
賛助会員過年度	0	100,000	-100,000	1口50,000円×2口
事業収益	[40,719,000]	[48,094,000]	[-7,375,000]	
学術研究事業(年次大会)	(36,854,000)	(43,924,000)	(-7,070,000)	
年次大会参加費	15,554,000	21,334,000	-5,780,000	
年次大会懇親会費	3,000,000	0	3,000,000	
年次大会協賛・広告	14,300,000	18,590,000	-4,290,000	
年次大会助成・補助	4,000,000	4,000,000	0	
普及啓発事業(HP・刊行物等)	(3,865,000)	(4,170,000)	(-305,000)	
論文誌広告料	0	0	0	
掲載料	3,685,000	3,930,000	-245,000	
産業界向けイベント参加費	180,000	240,000	-60,000	
受取補助金等	[0]	[0]	[0]	
雑収益	[113,469]	[839,401]	[-725,932]	
受取利息	260	245	15	
雑収益	113,209	839,156	-725,947	
経常収益計	52,370,469	62,061,401	-9,690,932	
(2) 経常費用				
事業費	[58,536,395]	[54,259,569]	[4,276,826]	
年次大会開催費	(46,818,978)	(45,502,789)	(1,316,189)	
年次大会運営サポート費	18,088,533	14,947,350	3,141,183	
受付代行費	2,393,855	3,805,564	-1,411,709	
資料作成費(印刷費)	184,800	267,498	-82,698	
コンファレンスバック代	0	0	0	
貸切バス・路線バス増発費	2,325,400	2,125,263	200,137	
プログラム委員会費	1,076,800	1,032,948	43,852	
年次大会会場費	9,768,000	16,218,754	-6,450,754	
年次大会人件費	1,500,000	1,444,150	55,850	
年次大会講師謝金等	1,386,000	599,832	786,168	
論文賞招待旅費	528,000	150,058	377,942	
代議員会等会議費	0	0	0	
表彰関係費	825,000	789,769	35,231	
年次大会懇親会費	4,000,000	695,939	3,304,061	
実行委員会費	2,662,050	2,868,601	-206,551	
託児委託費	165,000	57,063	107,937	
年次大会雑費	1,915,540	500,000	1,415,540	
普及啓発事業	(11,717,417)	(8,756,780)	(2,960,637)	
論文誌編集費	4,495,700	4,239,840	255,860	
論文誌電子化費用	405,900	266,200	139,700	
編集委員会費	599,952	479,000	120,952	査読・執筆謝礼・旅費
編集事務局費	1,354,834	1,444,073	-89,239	
論文誌活性化支援	651,731	532,704	119,027	英文校正等の国際化支援
表彰関係費	209,300	202,700	6,600	論文誌の優秀賞の賞金・賞状等
若手研究者等の支援	0	0	0	若手研究者の研究会等の支援
国際会議開催費	0	0	0	
国際会議参加支援費	0	0	0	
産業界向けイベント開催費	1,000,000	886,776	113,224	COLING2016寄付金の活用
普及啓発事業雑費	0	0	0	
記念事業費用	3,000,000	705,487	2,294,513	弁護士相談料
管理費	[11,571,300]	[5,471,228]	[6,100,072]	
代議員選挙費用	(200,000)	(232,340)	(-32,340)	2年ごと(奇数年)、2023予算では計上
業務委託費	(3,557,350)	(3,633,355)	(-76,005)	
学会事務委託費	2,530,000	2,814,735	-284,735	中西印刷(株)委託費
総務事務局費	600,000	389,620	210,380	学会秘書給与
税理士報酬	410,850	412,500	-1,650	
社労士報酬	16,500	16,500	0	
司法書士報酬	0	0	0	2020から税理士報酬より分離
会費集金費	(697,427)	(719,586)	(-22,159)	理事変更登記 約10万円、2年ごと(偶数年)、2023予算では計上しない
通信運搬費	(1,060,000)	(248,935)	(811,065)	Google Workspace、GCP、Slack等
租税公課	(476,200)	(310,800)	(165,400)	法人市民税・住民税・消費税
振込手数料	(30,323)	(34,515)	(-4,192)	
HP関連経費	(50,000)	(35,162)	(14,838)	
HP改修費用	(1,500,000)	(0)	(1,500,000)	
理事会旅費	(2,000,000)	(135,430)	(1,864,570)	
雑費	(2,000,000)	(121,105)	(1,878,895)	総会資料作成費、労働保険料、その他雑費
経常費用計	70,107,695	59,730,797	10,376,898	
当期経常収支差額	-17,737,226	2,330,604	-20,067,830	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外収支差額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	-17,737,226	2,330,604	-20,067,830	
一般正味財産期首残高	64,233,936	64,218,980	14,956	
一般正味財産期末残高	46,496,710	66,549,584	-20,052,874	

貸借対照表

2023年12月31日現在

一般社団法人 言語処理学会
一般会計

(単位：円)

科 目	当年度
I 資産の部	
1. 流動資産	
現金預金	72,107,669
前払金	2,477,055
流動資産合計	74,584,724
資産合計	74,584,724
II 負債の部	
1. 流動負債	
未払金	429,140
前受会費	7,606,000
流動負債合計	8,035,140
負債合計	8,035,140
III 正味財産の部	
1. 指定正味財産	
指定正味財産合計	0
2. 一般正味財産	66,549,584
正味財産合計	66,549,584
負債及び正味財産合計	74,584,724

財産目録

2023年12月31日現在

一般社団法人 言語処理学会
一般会計

(単位：円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金 額
(流動資産)	現金	手元保管	運転資金として	24,061
	預金	銀行預金		72,083,608
		ゆうちょ振替口座		42,656,328
		みずほ銀行		21,890,184
		ゆうちょ総合口座		7,537,096
	前払金			2,477,055
流動資産合計				74,584,724
固定資産合計				0
資産合計				74,584,724
(流動負債)	未払金			429,140
	前受会費			7,606,000
	前受正会員			5,392,000
	前受学生会員			812,000
	前受賛助会費			1,350,000
	前受正会員（シニア）会費			52,000
流動負債合計				8,035,140
固定負債合計				0
負債合計				8,035,140
正味財産				66,549,584

附属明細書

貸借対照表及び正味財産増減計算書の附属明細書として記載すべき事項はありません。

財務諸表に対する注記

1. 継続組織の前提に関する注記

継続組織の前提に重要な疑義を抱かせる事象又は状況はない。

2. 重要な会計方針

「公益法人会計基準」(平成20年4月11日 平成21年10月16日 令和2年5月15日改正 内閣府公益認定等委員会)を適用している。

(1) 消費税等の会計処理

消費税の会計処理は税込方式によっている。

3. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産	0	0	0	0
特定資産	0	0	0	0
合 計	0	0	0	0

4. 債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高

債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科目	債権金額	貸倒引当金の 当期末残高	債権の当期末 残高
未収金	0	0	0
合 計	0	0	0

一般社団法人言語処理学会 正味財産増減計算書

2023年 1月 1日から2023年12月31日まで

(単位:円)

科 目	決算額	備考
1. 経常増減の部		
(1) 経常収益		
受取会費	[13,128,000]	
正会員受取会費	(9,084,000)	
正会員当年度	8,952,000	@8,000円×1119名
正会員過年度	64,000	@8,000円×8名
正会員(シニア)当年度	68,000	@4,000円×17名
正会員(シニア)過年度	0	@4,000円×0名
学生会員受取会費	(2,344,000)	
学生会員当年度	2,324,000	@4,000円×581名
学生会員過年度	20,000	@4,000円×5名
賛助会員受取会費	(1,700,000)	
賛助会員当年度	1,600,000	1口50,000円×32口
賛助会員過年度	100,000	1口50,000円×2口
事業収益	[48,094,000]	
学術研究事業(年次大会)	(43,924,000)	
年次大会参加費	21,334,000	
年次大会懇親会費	0	
年次大会協賛・広告	18,590,000	
年次大会助成・補助	4,000,000	
普及啓発事業(HP・刊行物等)	(4,170,000)	
論文誌広告料	0	
掲載料	3,930,000	
産業界向けイベント参加費	240,000	
受取補助金等	[0]	
雑収益	[839,401]	
受取利息	245	
雑収益	839,156	
経常収益計	62,061,401	
(2) 経常費用		
事業費	[54,259,569]	
年次大会開催費	(45,502,789)	
年次大会運営サポート費	14,947,350	
受付代行費	3,805,564	
資料作成費(印刷費)	267,498	
コンファレンスバック代	0	
貸切バス・路線バス増発費	2,125,263	
プログラム委員会費	1,032,948	
年次大会会場費	16,218,754	
年次大会人件費	1,444,150	
年次大会講師謝金等	599,832	
論文賞招待旅費	150,058	
代議員会等会議費	0	
表彰関係費	789,769	
年次大会懇親会費	695,939	
実行委員会費	2,868,601	
託児委託費	57,063	
年次大会雑費	500,000	
普及啓発事業	(8,756,780)	
論文誌編集費	4,239,840	
論文誌電子化費用	266,200	
編集委員会費	479,000	査読・執筆謝礼・旅費
編集事務局費	1,444,073	
論文誌活性化支援	532,704	英文校正等の国際化支援
表彰関係費	202,700	論文誌の優秀賞の賞金、賞状等
若手研究者等の支援	0	若手研究者の研究会等の支援
国際会議開催費	0	
国際会議参加支援費	0	COLING2016寄付金の活用
産業界向けイベント開催費	886,776	
普及啓発事業雑費	0	IMT分担金等、弁護士相談料
記念事業費用	705,487	30周年記念行事関連

管理費	[5,471,228]	
代議員選挙費用	(232,340)	2年ごと(奇数年)、2023予算では計上
業務委託費	(3,633,355)	
学会事務委託費	2,814,735	中西印刷(株)委託費
総務事務局費	389,620	学会秘書給与
税理士報酬	412,500	
社労士報酬	16,500	2020から税理士報酬より分離
司法書士報酬	0	理事変更登記,約10万円,2年ごと(偶数年)、
		2023予算では計上しない
会費集金費	(719,586)	
通信運搬費	(248,935)	Google Workspace、GCP、Slack等
租税公課	(310,800)	法人市民税・住民税・消費税
振込手数料	(34,515)	
HP関連経費	(35,162)	
HP改修費用	(0)	
理事会旅費	(135,430)	
雑費	(121,105)	総会資料作成費、労働保険料、その他雑費
経常費用計	59,730,797	
当期経常収支差額	2,330,604	
2. 経常外増減の部		
(1) 経常外収益	0	
経常外収益計	0	
(2) 経常外費用	0	
経常外費用計	0	
当期経常外収支差額	0	
当期一般正味財産増減額	2,330,604	
一般正味財産期首残高	64,218,980	
一般正味財産期末残高	66,549,584	

●上記の通り報告いたします。

一般社団法人言語処理学会財務理事

富士 秀



一般社団法人言語処理学会財務理事

藤田 早苗



●監査の結果、上記の結果に相違ありません。

一般社団法人言語処理学会 監事

落谷 亮



一般社団法人言語処理学会 監事

山下 達雄



2024年 2 月 7 日

監査報告書

2024 年 2 月 7 日

一般社団法人 言語処理学会

会 長 乾 健太郎 殿

一般社団法人 言語処理学会

監 事 落谷 亮 
監 事 山下 達雄 

私たちは 2023 年 1 月 1 日から 2023 年 12 月 31 日までの 2023 年度における
一般社団法人言語処理学会の会計および業務の監査を行い、その結果を報告します。

1. 監査の方法の概要

- (1) 会計監査については、帳簿並びに関係書類の閲覧など必要と思われる監査
手続を用いて計算書類の正確性を検討した。
- (2) 業務監査については、理事会への出席、理事からの報告の聴取、関係書類の
閲覧などを行い、業務執行の妥当性を検討した。

2. 監査の結果

- (1) 正味財産増減計算書、貸借対照表、財産目録は会計帳簿の記載金額と一致、
法人の財政状況を正しくしめしているものと認めます。
- (2) 事業報告の内容は、事実に従い、法人の状況を正しく示していると認めます。

以上

2024年度事業計画

1. 運営・活動方針

論文誌「自然言語処理」の発行、年次大会・言語処理技術セミナーの開催など、当会の目的に沿った運営・活動を進めます。また、学会活動を支えるITインフラの整理・拡充を始めとする学会運営体制の活性化・合理化に努めるほか、2024年4月に迎える学会30周年の記念事業についても準備を進めます。

2. 会誌の発行

- ・第31巻第1号(2024年3月中旬発行予定、通巻139号)
- ・第31巻第2号(2024年6月中旬発行予定、通巻140号)
- ・第31巻第3号(2024年9月中旬発行予定、通巻141号)
- ・第31巻第4号(2024年12月中旬発行予定、通巻142号)

第28巻第1号からJ-STAGE上のオンライン出版に移行しました。また、2018年1月より同期式査読に移行し、すべての通常号の編集を予め設定したスケジュールに従って行っています。これにより「〇月〇日までに投稿すれば△月△日までに必ず採否が決まる」というように日程が保証されています。編集スケジュールは学会ウェブページに掲載しています。

3. 第30回年次大会の開催

2024年3月11日(月)～3月15日(金)に第30回年次大会を神戸国際会議場にて開催します。言語処理学会30周年を記念し、特別招待講演・特別セッションを開催する予定です。前回に引き続き、ハイブリッド形式とし、ハイブリッド形式の安定した運用の確立、ならびに、実行委員会・プログラム委員会の委員の負担軽減を進めています。

4. ニュースレターの発行

原則として、前年と同様の回数と内容で発行予定です。学会のメーリングリストを通じて配布します。これらは、学会のホームページにバックナンバーとして公開します。

5. 会議

◇社員総会

2024年3月の年次大会に併せて、2024年度社員総会を開催します。予算・決算、学会全体の活動の活性化に向けた施策、関連する研究分野との交流の促進などについて審議、承認します。

◇理事会

昨年度同様に6回程度開催します。論文等の電子的公開、年次大会の開催、他学会との連携などについて審議します。

◇編集委員会

編集委員会は、メールによる審議をベースとし、これまで通りの効率的な運営に努めます。会誌をより活性化し、会員にとってさらに魅力的なものとするために、論文の投稿促進施策や、学会記事の企画などを継続的に検討します。

6. 言語処理技術セミナー

自然言語処理技術の裾野を広げるため、人文系の方を対象としたオフセミナーを開催します。30周年記念事業の一貫として、年間2回の開催を予定しています。

7. 30周年記念事業

30周年記念事業の実施を進めていきます。具体的には、記念シンポジウム、記念論文賞、賞の新設、留学支援関連事業、分野交流ハッカソン、分野間交流言語処理技術セミナー、教材キュレーションの実施を行います。

◇表彰制度

言語処理分野で功績があった方を顕彰するフェロー制度を、30周年記念事業の一環として新設します。フェロー選定委員会を設け受賞者を決定します。

8. 若手支援事業

自然言語処理および周辺技術に携わる若手のための研究・交流のシンポジウムを実施します

9. その他

現在の学会ホームページのモダナイゼーションについて検討し、一部の箇所から着手します。

一般社団法人言語処理学会 予算書

2024年1月1日から2024年12月31日まで

(単位:円)

科 目	2024予算額	2023予算額	2023決算	備考
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
受取会費	[13,046,000]	[11,538,000]	[13,128,000]	
正会員受取会費	(9,056,000)	(8,316,000)	(9,084,000)	
正会員当年度	8,924,000	8,140,000	8,952,000	@8,000円×1090名
正会員過年度	64,000	112,000	64,000	@8,000円×8名
正会員(シニア)当年度	68,000	64,000	68,000	@4,000円×17名
正会員(シニア)過年度	0	0	0	@4,000円×0名
学生会員受取会費	(2,340,000)	(1,872,000)	(2,344,000)	
学生会員当年度	2,320,000	1,852,000	2,324,000	@4,000円×570名
学生会員過年度	20,000	20,000	20,000	@4,000円×5名
賛助会員受取会費	(1,650,000)	(1,350,000)	(1,700,000)	
賛助会員当年度	1,550,000	1,350,000	1,600,000	1口50,000円×31口
賛助会員過年度	100,000	0	100,000	
事業収益	[60,473,000]	[40,719,000]	[48,094,000]	
学術研究事業(年次大会)	(47,548,000)	(36,854,000)	(43,924,000)	
年次大会参加費	21,334,000	15,554,000	21,334,000	
年次大会懇親会費	4,800,000	3,000,000	0	懇親会実施予定
年次大会協賛・広告	18,535,000	14,300,000	18,590,000	
年次大会助成・補助	2,879,000	4,000,000	4,000,000	
普及啓発事業(HP・刊行物等)	(4,225,000)	(3,865,000)	(4,170,000)	
論文誌広告料	0	0	0	
掲載料	4,015,000	3,685,000	3,930,000	
産業界向けイベント参加費	210,000	180,000	240,000	
若手向けイベント	(8,700,000)			
イベント参加費	3,250,000			
イベント協賛・広告	5,450,000			
受取補助金等	[0]	[0]	[0]	
雑収益	[822,076]	[113,469]	[839,401]	
受取利息	245	260	245	
雑収益	821,831	113,209	839,156	
経常収益計	74,341,076	52,370,469	62,061,401	
(2) 経常費用				
事業費	[75,358,467]	[58,536,395]	[54,259,569]	
年次大会開催費	(47,722,812)	(46,818,978)	(45,502,789)	
年次大会運営サポート費	16,038,581	18,088,533	14,947,350	
受付代行費	3,648,519	2,393,855	3,805,564	
資料作成費(印刷費)	267,498	184,800	267,498	
コンファレンスバック代	0	0	0	
貸切バス・路線バス増発費	1,300,000	2,325,400	2,125,263	
プログラム委員会費	1,175,000	1,076,800	1,032,948	STARTシステム利用料、ウェブ作業費
年次大会会場費	12,005,414	9,768,000	16,218,754	
年次大会人件費	1,500,000	1,500,000	1,444,150	
年次大会講師謝金等	600,000	1,386,000	599,832	
論文賞招待旅費	140,000	528,000	150,058	
代議員会等会議費	0	0	0	
表彰関係費	700,000	825,000	789,769	
年次大会懇親会費	5,800,000	4,000,000	695,939	懇親会実施予定
実行委員会費	3,882,800	2,662,050	2,868,601	現地視察旅費、実行委員会雑費ほか
託児委託費	165,000	165,000	57,063	
年次大会雑費	500,000	1,915,540	500,000	講師謝礼ほか
普及啓発事業	(7,991,055)	(8,717,417)	(8,756,780)	
論文誌編集費	4,644,640	4,495,700	4,239,840	
論文誌電子化費用	276,100	405,900	266,200	
編集委員会費	650,000	599,952	479,000	査読・執筆謝礼・編集委員旅費
編集事務局費	1,400,695	1,354,834	1,444,073	編集事務局給与
論文誌活性化支援	487,151	651,731	532,704	英文校正等の国際化支援
表彰関係費	532,469	209,300	202,700	論文誌の優秀賞の賞金、賞状等
若手研究者等の支援	0	0	0	若手研究者の研究会等の支援
国際会議開催費	0	0	0	
国際会議参加支援費	0	0	0	
産業界向けイベント開催費	0	1,000,000	886,776	2024年は記念事業の一環として実施
普及啓発事業雑費	0	0	0	IMT分担金等、弁護士相談料
記念事業費用	(11,114,600)	(3,000,000)	705,487	
旅費	3,650,000			30周年記念事業
会場費	1,664,600			委員旅費、講師など旅費
支援金	900,000			留学支援金
謝金	1,140,000			
賞金	200,000			
機器利用料	400,000			
業務委託費	1,500,000			
通信費	980,000			シンポジウム中継用
物品費	500,000			1万円(認証状+バッジ)×最大50名
雑費	180,000			賞状、清掃費など
若手向けイベント費用	(8,530,000)			
旅費	1,540,000			
会場費	4,500,000			
支援金	350,000			学生旅費支援
謝金	240,000			招待講演、チュートリアル講演
賞金	200,000			
機器利用料	0			
業務委託費	1,500,000			
通信費	0			
物品費	100,000			
雑費	100,000			
管理費	[6,037,549]	[11,571,300]	[5,471,228]	
代議員選挙費用	(0)	(200,000)	(232,340)	2年ごと(奇数年)、2023予算では計上
業務委託費	(4,303,735)	(3,557,350)	(3,633,355)	

学会事務委託費	2,814,735	2,530,000	2,814,735	中西印刷(株)委託費(偶数年末契約更新)
総務事務局費	960,000	600,000	389,620	
税理士報酬	412,500	410,850	412,500	
社労士報酬	16,500	16,500	16,500	2020から税理士報酬より分離
司法書士報酬	100,000	0	0	理事変更登記, 約10万円, 2年ごと(偶数年)
会費集金費	(659,533)	(697,427)	(719,586)	
通信運搬費	(324,669)	(1,060,000)	(248,935)	
租税公課	(310,800)	(476,200)	(310,800)	法人市民税・住民税・消費税
振込手数料	(36,990)	(30,323)	(34,515)	
HP関連経費	(35,162)	(50,000)	(35,162)	
HP改修費用	(0)	(1,500,000)	(0)	
理事会旅費	(185,560)	(2,000,000)	(135,430)	
雑費	(181,100)	(2,000,000)	(121,105)	総会資料作成費、会議室利用料、労働保険料ほか
経常費用計	81,396,016	70,107,695	59,730,797	
当期経常収支差額	-7,054,940	-17,737,226	2,330,604	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益	0	0	0	
経常外収益計	0	0	0	
(2) 経常外費用	0	0	0	
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外収支差額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	-7,054,940	-17,737,226	2,330,604	
一般正味財産期首残高	66,553,561	64,233,936	64,218,980	
一般正味財産期末残高	59,498,621	46,496,710	66,549,584	

新任理事候補者

本総会終結の時をもって理事全員が退任となりますので、理事の選任をお願いします。

役員名	氏名	所属
理事	黒橋 禎夫	国立情報学研究所／京都大学
理事	鶴岡 慶雅	東京大学
理事	宮尾 祐介	東京大学
理事	荒瀬 由紀	大阪大学
理事	柴田 知秀	LINE ヤフー
理事	船越 孝太郎	東京工業大学
理事	乾 孝司	筑波大学
理事	井之上 直也	北陸先端科学技術大学院大学
理事	岡崎 直観	東京工業大学
理事	吉野 幸一郎	理化学研究所
理事	須藤 克仁	奈良先端科学技術大学院大学
理事	斉藤 いつみ	東北大学
理事	藤田 早苗	NTT
理事	田村 晃裕	同志社大学
理事	金丸 敏幸	京都大学
理事	CHU Chenhui	京都大学
理事	松原 茂樹	名古屋大学
理事	小町 守	一橋大学
理事	徳久 良子	豊田中央研究所
理事	村上 明子	損保ジャパン
理事	永田 亮	甲南大学
理事	石野 亜耶	広島経済大学
理事	鈴木 潤	東北大学
		(以上 23 名)

新任監事候補者

本総会終結の時をもって監事 1 名が退任となりますので、監事の選任をお願いします。

役員名	氏名	所属
監事	富士 秀	富士通
		(以上 1 名)

2024 年度役員構成予定

役員名	氏名	所属
理事(会長)	黒橋 禎夫	国立情報学研究所／京都大学
理事(副会長)	鶴岡 慶雅	東京大学
理事(編集委員長)	宮尾 祐介	東京大学
理事(副編集委員長)	荒瀬 由紀	大阪大学
理事(大会担当)	柴田 知秀	LINE ヤフー
理事(大会担当)	船越 孝太郎	東京工業大学
理事(大会担当)	乾 孝司	筑波大学
理事(大会担当)	井之上 直也	北陸先端科学技術大学院大学
理事(総務担当)	岡崎 直観	東京工業大学
理事(総務担当)	吉野 幸一郎	理化学研究所
理事(渉外担当)	須藤 克仁	奈良先端科学技術大学院大学
理事(渉外担当)	斉藤 いつみ	東北大学
理事(財務担当)	藤田 早苗	NTT
理事(財務担当)	田村 晃裕	同志社大学
理事(広報担当)	金丸 敏幸	京都大学
理事(広報担当)	CHU Chenhui	京都大学
理事(事業担当)	松原 茂樹	名古屋大学
理事(事業担当)	小町 守	一橋大学
理事(若手担当)	徳久 良子	豊田中央研究所
理事(企画担当)	村上 明子	損保ジャパン
理事(企画担当)	永田 亮	甲南大学
理事(企画担当)	石野 亜耶	広島経済大学
理事(DX 担当)	鈴木 潤	東北大学
		(以上 23 名)
監事	山下 達雄	LINE ヤフー
監事	富士 秀	富士通
		(以上 2 名)

2024 年度代議員構成

2022－2025 年度代議員		2024－2027 年度代議員	
今村 賢治	情報通信研究機構	江里口 瑛子	Microsoft
内田 ゆず	北海学園大学	大関 洋平	東京大学
小木曾 智信	国立国語研究所	岡田 真	大阪公立大学
梶原 智之	愛媛大学	神崎 享子	追手門学院大学
窪田 悠介	国立国語研究所	高 鵬挙	東芝
阪本 浩太郎	BESNA 研究所	佐々木 稔	茨城大学
笹野 遼平	名古屋大学	貞光 九月	VAIABLE
佐藤 敏紀	ソフトバンク	杉山 弘晃	NTT
鈴木 良弥	山梨大学	十河 泰弘	日立製作所
建石 由佳	科学技術振興機構	高橋 哲朗	富士通
谷口 友紀	旭化成	中嶋 秀治	NTT
平尾 努	NTT	西村 良太	徳島大学
松本 和幸	徳島大学	美野 秀弥	NHK
三輪 誠	豊田工業大学	横野 光	明星大学
計14名		計14名	